

KYUSHU NATURE TRAIL



一般社団法人
九州自然歩道フォーラム

2025年次 報告書

日本の「長距離自然歩道」と進化してきた「ロングトレイル」

1969年、厚生省国立公園部より提唱された「長距離自然歩道構想」を皮切りに、日本各地で長距離自然歩道が整備されてきた。

この構想に基づき、最初に整備されたのが1974年に全線開通した「東海自然歩道」である。高度経済成長期において都市部の拡大が進む中、東京～大阪間に“自然との線引き”を目的に整備され、誰もが自然や歴史・文化に触れられる歩道として計画された。そこには、「人間性の回復」「歩くことの復権」「自然保護の意識醸成」といった理念が込められており、日本における野外レクリエーションの基盤として重要な役割を果たしてきた。東海自然歩道は2024年に開通50周年を迎えている。

その後、九州自然歩道、中国自然歩道、四国自然歩道、首都圏自然歩道など、全国各地で整備が進められ、2019年には東北太平洋岸自然歩道、通称「みちのく潮風トレイル」が全線開通した。現在、日本国内には10の長距離自然歩道が整備されており、その総延長は約28,000kmとなる。また、長距離自然歩道は単なる歩行空間の整備にとどまらず、自然公園制度と連動しながら、国民の自然理解の促進や環境保全意識の醸成を目的として整備されてきた経緯を持つ。特に国立公園・国定公園内外を横断

するルート設計により、地域ごとの多様な自然環境や文化資源を面的に捉えることが可能となっている。一方で、整備当初は行政主導で進められたため、長期的な利用促進や民間参画の仕組みは十分に構築され



みちのくトレイルクラブHPより提供



ず、現在の維持管理や利活用に関する課題の要因ともなっている。特に近年は、老朽化や担い手不足、利用者の減少、歩道の認知度の低下などが顕在化している。こうした課題に対し、「みちのく潮風トレイル」では、環境省と民間団体〔認定NPO法人みちのくトレイルクラブ〕が連携し、広域的な運営体制や地域との協働による管理運営の仕組みを構築しており、全国の長距離自然歩道における先進事例となっている。

2024年に東海自然歩道50周年、みちのく潮風トレイル5周年を迎え、東海自然歩道活性化の取り組みが始まり、全線調査や情報統一等が進められている。

「九州自然歩道フォーラム」の設立

官民連携による再興と広域連携の基盤づくり

九州自然歩道は主に環境省九州地方環境事務所および九州7県が、市町村と連携しながら維持管理を担っている。しかし、総延長約3,000kmに及ぶ広域路線においては、利用実態の把握や一体的な管理は容易ではなく、整備・保全是地域ごとに分断されがちな状況にあった。また、各県ごとに標識整備やマップ制作が行われてきたため、情報の統一性が欠如し、利用者にとっても全体像を把握しづらい状況が生じていた。これにより、利用低迷と管理体制の弱体化が相互に影響し合う構造的課題が存在していた。これらの課題は、①道標や施設の老朽化・ルート分断といったハード面、②情報の分散や認知不足といったソフト面、③担い手不足という人的課題の三層構造として整理することができる。

この状況を転換する契機となったのが、環境省OBで弊社顧問の神田修二氏と、日本のロングトレイル提唱者であり「信越トレイル」の整備に関わった加藤則芳氏である。2009年に神田氏が環境省九州地方環境事務所の所長へ就任した際、加藤氏より九州自然歩道への取り組みを提



案され、同年加藤氏の視察が行われた。視察に同行したのが、代表理事の野元であり、フォーラム発起人の一人、岡野隆宏氏である。視察した加藤氏は、九州自然歩道について「受け入れ体制さえ整えば、日本を代表するロングトレイルになりうる」と評価し、この言葉が地域の有志や関係者に大きな影響を与えた。

その後、2011年に環境省主導で「九州ロングトレイルミーティング」が開催され、アウトフィッター、登山ガイド、地域団体、研究者、行政関係者が一堂に会し、広域連携の必要性が共有された。これを受け、2012年8月に民間団体「九州自然歩道フォーラム」が設立された。従来の行政主導型の維持管理を補完するものとして、現地調査やルート情報の整備、マップ制作、イベント開催など多岐にわたる。また、各県・市町村、民間団体、利用者とのネットワークを構築し、分断されていた情報や取り組みをつなぐ役割を果たしている。それは、行政区分を越えて歩道全体を俯瞰し、情報ハブ機能、広域調整機能、担い手育成機能を担う中間支援組織として位置づけられる。こうした取り組みにより、九州自然歩道は単なる「管理対象」から「地域とともに育てる道」へと再定義されつつあり、持続可能な運営体制の構築に向けた基盤が徐々に整いつつある。

九州自然歩道は、九州の自然・歴史・文化をつなぐ重要な地域資源であり、その価値を将来に継承していくためには、行政・地域・民間・利用者が連携した持続可能な運営体制の構築が不可欠である。2030年の全線開通50周年を見据え、環境省及び九州7県とともに新たな運営体制構築に取り組んでおり、九州自然歩道は再整備と利活用の転換期を迎えている。



九州自然歩道のルート構成

九州の自然・文化圏を結ぶ円環型トレイル

九州自然歩道は、九州7県を周回する形で設定された長距離自然歩道である。北の起終点は福岡県北九州市の皿倉山山頂に位置し、ここには起点を示す「元標」が設置されている。山頂には、アメリカの長距離自然歩道構想の提唱者であるベントン・マッケイの言葉が刻まれた石碑もあり、1980年の全線開通式もこの地で行われた。

ルートは皿倉山から福智山、平尾台、英彦山を経て東西に分岐する。東ルートは大分県のくじゅう連山から祖母山で宮崎県へつながり、高千穂や綾の照葉樹林を経て、高千穂峰で鹿児島県へ入る。霧島神宮や鹿屋の高隅山系を経て最南端佐多岬へたどり着く。西ルートは佐賀県の脊振山系や古湯温泉、天山、黒髪山を巡り、栗木峠から長崎県へ入る。長崎市を通り、島原半

島を縦断し、熊本の鬼池港へ渡る。天草諸島を渡り歩き、玉名や山鹿から阿蘇、五家荘、人吉から鹿児島県へ。薩摩半島の海沿いを巡り、根占港へ渡り、本土最南端の佐多岬で東ルートと合流する。また、2018年の世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の登録を契機に、平戸や五島列島のルートが追加され、現在では総延長は約3,000kmに達している。沿線には海岸景観、火山地形、歴史遺産、里山の暮らしなど多様な地域資源が点在しており、歩行を通じて九州の自然と文化を総合的に体験できる構成となっている。九州自然歩道のルートは、必ずしも一続きの登山道として整備されているわけではなく、地域の生活道路や農道、林道、舗装路など多様な道の組み合わせによって構成されている。このため、歩行環境は区間ごとに大きく異なり、初心者から長距離志向のハイカーまで幅広い利用が可能となっている。一方で、こうした多様性はルートの分かりにくさにもつながりやすく、案内標識や情報提供の充実が重要な課題となっている。歩道沿線には利用拠点施設（トレイルセンター）が設置されており、情報提供や休憩機能、地域交流の拠点として活用されている。

近年は、アドベンチャーツーリズムの推進やインバウンド需要の回復を背景に、長距離自然歩道は、自然体験型観光の基盤として再評価されている。特に、地域の自然・文化・暮らしを体感する「歩く旅」への関心が高まり、受入体制の整備や情報発信の高度化、多言語対応などが求められている。また、各地では行政と民間が連携し、広域的な運営体制の構築やブランド化の取り組みが進められており、日本におけるロングトレイルは、従来の自然歩道から、地域資源を活かした持続可能な観光・地域づくりの基盤へと位置づけが変化しつつある。



団体概要

団体情報

一般社団法人九州自然歩道フォーラム（設立：2012年8月（法人格取得2023年3月17日））

〒810-0023 福岡市中央区警固2-1-6 宇田ビル206号室

TEL：092-600-4399 MAIL：info@kntf.jp 公式LINE：



@kyushu_nature_trail2108

組織構成

顧問

神田修二氏

アドバイザーチーム

相澤久美氏（認定NPO法人みちのくトレイルクラブ 常務理事、
（一社）トレイルブレイズハイキング研究所 常務理事）
江副直樹氏（ブンボ株式会社 代表取締役）

理事会

代表理事



野元 尚巳
かごしまカヤックス代表

副代表理事



山口 久臣
（一社）IOE代表理事



成崎 聡
NPO法人ひむか感動体験ワールド事業部長

事務局

福島 優 事務局長
（キッチンハイイク九州 代表、(同)Trailhead 代表）
田川光介 事務局スタッフ
福島 緑 事務局スタッフ

福岡支部

藤本広一 支部長
石津玉代
高山勇樹
福島優

長崎支部

田川光介 支部長
松本賢人
松田幸也
福島優



九州自然歩道フォーラム理念

九州をつなぐ 自然と歩く道づくり

九州7県をつなぐ九州自然歩道を
“自然と触れ合える道”
と
“自然と歩きたくなる道”
へと再興していく

5つの経営方針

- ①九州自然歩道をベースとした各地域での歩く文化の醸成
- ②九州内のトレイルに関する総合的な中間支援事業
- ③“歩く事業”の企画と創造と普及
- ④自然環境、自然体験活動を活用した事業
- ⑤総合的なツーリズムに関わる事業

ECサイト「九州自然歩道のおみせ」

「九州自然歩道のおみせ」は、九州自然歩道フォーラムが運営する公式ECサイトであり、歩道の魅力発信と自主財源の確保を目的として開設。島原半島HikingMapBookやオリジナルグッズ等の販売を通じて、歩く旅の楽しさや地域の魅力を発信している。商品の売上は、九州自然歩道の情報発信や維持管理、普及啓発活動にも活用し、“買うことで自然歩道を支える”仕組みづくりにもつなげている。今後は、登山用品店や観光案内所との連携、オンライン発信の強化を通じて、さらなる認知拡大と利用促進を目指していく。



3D WHISTLE 2g
九州自然歩道限定カラー



島原半島
HikingMapBook



九州自然歩道
ステッカー



九州自然歩道のおみせ

九州トレイルパートナーズ

制度概要

本制度は、この歩道を将来にわたり維持・活用していくための新たな支援の枠組みである。パートナーズからの協力や会費をもとに、歩道の修繕や標識の改善、情報発信の充実を図り、安全で魅力ある利用環境の整備を推進する。また、地域住民や関係団体との連携を強化し、自然と文化を次世代へ継承する活動を展開する。



詳細HP

九州自然歩道には、古道や修験道、生活路など歴史的価値の高い道が数多く含まれており、地域の記憶を伝える重要な資源である。これらを現代的に活かしながら保全していくことが求められる。トレイルパートナーズ制度は、個人・企業・団体が多様な形で関わることを可能とし、継続的な支援と参加を促進するものである。支援者には活動報告や関連企画への参加機会を提供し、歩道の魅力を共有する。歩くことを起点に、地域と自然をつなぐ持続的な仕組みの構築を目指すものである。

2025年度の登録者

トレイルパートナー

16名

九州自然歩道フォーラムの事業をともに推進する「パートナー」。
九州自然歩道を活かした地域づくりや、事業・プロジェクトと一緒に考え、動かしていくメンバー。企画づくりや広報、地域連携など、それぞれの得意や立場を活かして、歩く道の未来を一緒に育てていく。

トレイルワーカー

40名

現場と一緒に汗を流し、歩く道を守り・育てる「フィールドワーカー」。
九州自然歩道のフィールドで、実際に体を動かして関わるボランティアメンバー。道なおしや環境整備、イベント運営のサポートなど、現場と一緒に汗をかき、道に触れ、地域や自然とつながる実践的な役割を担っていただく。

里山サポーター

10名 123,000円

歩く道づくりを応援する「年会費サポーター」。
現地に行かなくても、九州自然歩道の活動や地域を応援できるメンバー。年会費によって、歩く道の保全・整備や地域との取り組みを支えていただく。活動報告を通じて、遠くからでも道づくりに参加できる。

活動実績

2025年9月6日 パタゴニア福岡ストア・トレイルパートナーズ説明会

2025年9月24日 YAMAP英彦山巡礼路パネル設置

2026年3月28日 平尾台フィールド清掃

※詳細は、後述事業一覧参照



長崎支部の活動報告

長崎支部では、九州自然歩道の保全および利活用の促進を目的とした現地での実践的な取り組みと、支部およびトレイルワーカーとの連携強化の両面から活動を展開しました。

主な取り組みとして、2025年9月に佐世保市周辺の九州自然歩道ルートにおいて「トレイルクリーン佐世保（Trail Clean Nagasaki vol.0）」を実施しました。本活動は、隠居岳公園から隠居岳、木場山を經由し、長崎県立佐世保青少年の天地へ至る約7kmの区間を対象にゴミ拾いをしながらハイキングを行うという活動です。9名の方が参加されました。

紙類やプラスチック類等の可燃ごみ、缶・瓶等の不燃ごみの収集、分別を行い、佐世保市廃棄物減量推進課の協力のもと適切に回収・処理を行いました。これにより、利用環境の改善とともに、行政と連携した実効性のある保全活動として実施することができました。また、回収したペットボトル等の資源については、その有効活用の可能性についても検討を進めています。

また、本活動は単なる清掃にとどまらず、参加者が実際に九州自然歩道を歩きながら作業を行うことで、ルートの魅力や現状の課題を共有する機会となりました。参加者同士の対話を通じて、地域主体による維持管理の重要性を再認識する場となりました。

さらに、長崎支部では定期的にミーティングを開催し、支部内の連携強化および情報共有を図るとともに、各エリアにおける利用状況や課題の整理、今後の活動方針について意見交換、体制作りを行いました。ミーティングでは、イベント開催に向けたアイデアの醸成や企画検討も行い、支部としての主体的な取り組みの創出につなげています。

また、支部メンバーがトレイルワーカーと連携し、九州自然歩道の長崎ルートを実際に歩くことで、現地の状況把握や課題の抽出を行いました。こうした現地での確認とミーティングでの議論を組み合わせることで、より実態に即した課題整理と方向性の明確化につながっています。

これらの取り組みにより、地域主体による九州自然歩道の維持管理意識の醸成と、持続的な活用に向けた基盤づくりを着実に進めることができました。今後も長崎支部では、地域と連携した実践的な活動を継続しながら、多くの方が歩いて楽しめる九州自然歩道長崎県ルートの実現に向けて取り組んでまいります。

〔長崎支部長 田川光介〕



福岡支部の活動報告

2025年9月13日、九州自然歩道50周年に向けてのキックオフイベントを開催しました。九州自然歩道始点である血倉山山頂にある、ハイカーを見守ってきた「九州自然歩道元標」の前で開催。北九州市役所からも参加いただきました。トークセッションと参加者同士の対話のあと、九州自然歩道のこれからのに向けてのそれぞれのひとことを胸に記念撮影をしました。

2030年の九州自然歩道50周年、さらにはその50年先の100周年にむけていいキックオフができたと思います。22名の参加者のうち12名は国見岩経由で徒歩で下山し、歩くことや血倉山の



魅力と一緒に体感しました。多くの方と一緒に、九州自然歩道の未来に向けて頑張っていきたいと思います！

★トークセッション「血倉山からの始まりの道」

〔ゲスト〕大浦太九馬氏（北九州市観光課課長）

〔登壇者〕石津玉代氏（ハイカー）

大川内洋介氏（福岡県観光連盟地域連携推進部部长）

福島優（九州自然歩道フォーラム事務局長）

〔進行〕藤本広一（九州自然歩道フォーラム福岡支部）

〔福岡支部長 藤本広一〕



過去の活動実績

九州全域

九州自然歩道管理者アンケート調査(2012)
道標(みちしるべ)プロジェクト(2012)
西日本新聞「あるこ！」連載(2013～)
九州自然歩道管理活用・基盤整備事業(2013)
7県担当者ヒアリング(2013)
関係者ヒアリング(2014)
九州自然歩道活用促進事業(2014)
「HYAKKEI」に連載(2015～2016)
「国立公園10月号」寄稿(2017)
CATS観光創造研究会講演(2018)
FBS開局50周年記念番組「九州1周ヤマトホ！」(2019～2020)
「みちのく潮風トレイル」全線開通記念式典・シンポジウム(2019)
「長距離自然歩道構想50周年記念シンポジウム」講演(2019)
「九州自然歩道40周年記念シンポジウム」共催(2020)
(公社)日本環境教育フォーラム「地球のこども」寄稿(2021)
「清里ミーティング」講演(2021)
「ロングトレイル懇談会」招聘
令和3年度自然歩道関係功労者受賞(2021)
「Trekitchen2023」協力(2023)
第13回九州自然歩道ミーティング(2024)
旅行サービス手配業(ランドオペレーター)事業(2024～)

佐賀県

第8回フォーラムミーティング(2015)
佐賀県コース現地踏査(2016)
太良町安全講習会(2022)
多良海道・街道案内人育成講座(2023)
サガノアソビ(株)会社案内制作(2023)

長崎県

北部3県勉強会(2016)
長崎県コース現地踏査(2017)
高岩山トレッキングガイド(2019)
島原半島の九州自然歩道調査及びトークイベント(2023)
歩き旅トークイベントVol.2(2024)
長崎県・島原半島HikingMapBook制作事業(2024)

熊本県

九州ロングトレイルミーティング(2011)
九州自然歩道意見交換会(2011)
南阿蘇の九州自然歩道歩き(2011)
第1回フォーラムミーティング(2012)
第4回フォーラムミーティング(2013)
第5回九州自然歩道ウォーク(2014)
第9回九州自然歩道フォーラムミーティング(2015)
ビジターセンター意見交換会講演(2016)
WaWくまもと構想策定委員(2017)
第11回九州自然歩道フォーラムミーティング(2017)
第12回九州自然歩道フォーラムミーティング(2019)
「WaWくまもとネットワーク設立記念大会」講演(2020)
熊本県コース現地踏査(2018～2023)
「人吉球磨地域における九州自然歩道利活用」アドバイザー(2021～2023年)
南阿蘇外輪山自然歩道調査・阿蘇くじゅう国立公園管理事務所協働(2024)



福岡県

第2回九州ロングトレイルミーティング(2011)
「里山・田園保全リーダーミーティング」講演(2012)
第3回フォーラムミーティング(2012)
第1～3回九州自然歩道ウォーク(2013)
福岡県コース現地踏査(2013)
第6回フォーラムミーティング(2013)
福智山管理作業イベント(2013)
「アウトドアシティ福岡2014春」出展(2014)
「パタゴニア福岡スピーカーシリーズ」講演(2014)
「福岡の山のトイレ、環境を考える会」講演(2015)
「福岡女子大学環境経済学研究室」講義(2015)
「フレッシュマンカレッジ」講演(2016)
「せふりトレッキング満ぶくツアー」ガイド(2016)
「造園学会九州支部」発表(2016)
「ジョン・ミューア・トレイル報告会in福岡」主催(2016)
第10回フォーラムミーティング(2016)
「好日山荘福岡バルコ店」机上講座(2017,2018)
「ふくおか登山フォーラム」講演(2018)
「夏山フェスタin福岡2019」ブース出展(2019)
「ソーシャルビジネスフォーラム」講演(2019)
YAMAP英彦山ルート開発(2021)
福岡県九州自然歩道親子向けトレッキングイベント事業(2019～2022)
あったがわの旅・九州自然歩道トレッキングガイド(2015～2024)
「夏山フェスタin福岡2023」講演(2023)
「インターナショナルエアアカデミー」講演(2023)

大分県

第4回九州自然歩道ウォーク&ロングトレイルナイト(2013)
大分県コース現地踏査(2015)
くじゅうフェスin長者原(2014, 2016, 2019)
「山の日」制定記念in大分・くじゅう(2015)

宮崎県

九州環境教育ミーティング(2012)
造園学会九州支部大会(2012)
第7回フォーラムミーティング(2014)
宮崎県コース現地踏査(2017)
「国立・国定公園をつなぐ九州自然歩道の新しい一歩づくり事業」補助(2021)
九州自然歩道魅力ステップアップ事業
「ヒアリング補助」(2022)
福本玲央オンライン写真展「gentle」
トークイベント登壇(2022)
九州自然歩道ステップアップ事業
「祖母山ツアー」(2022)
「綾町トロッコ道再生フォーラム」講演(2022)
九州自然歩道ステップアップ事業
「道なおしワークショップ」(2023)
令和6年度九州自然歩道宮崎地域連絡会参画及び
トークイベント「あんたもさるいてみらんね」登壇(2024)

鹿児島県

鹿児島県コース現地調査(2007)
鹿児島ミーティング(2012)
第2回フォーラムミーティング(2012)
第5回フォーラムミーティング(2013)
「世界自然遺産 奄美トレイル」講演(2017)
「白紫池湖面利用ルール運用」(2021～2022)
鹿児島県コース現地踏査(2023～)
霧島連山登山道道なおし整備(2024)

2025年度 事業一覧

- 01 「あるこ！～九州自然歩道の旅～」連載
- 02 パタゴニア福岡ストア・トレイルパートナーズ説明会
- 03 歩き育てる九州自然歩道～鹿児島セッション～
- 04 台湾千里歩道協会視察アテンド
- 05 平尾台フィールド清掃
- 06 令和6年度九州自然歩道活性化等支援業務（繰越）
- 07 自然歩道新規ルート案検討業務
- 08 九州自然歩道魅力発信動画制作
- 09 九州自然歩道五島列島ルートを活用した自然とのふれあい促進業務
- 10 九州自然歩道平戸ルートを活用した自然とのふれあい促進業務
- 11 九州自然歩道維持管理支援業務
- 12 九州自然歩道効率的維持管理・利活用促進業務
- 13 長期滞在を活かした「稼げる町いぶすき」への観光推進事業
- 14 多良岳を活用した歩きイベントに向けた研究
- 15 NorthFaceコンテンツ開発
- 16 旅行サービス手配（ランドオペレーター）業務
- 17 松本トレイルデイズ
- 18 宮崎ツアーガイド
- 19 メディア掲載
- 20 協力
- 21 後援

2025度 事業報告

- 01** 「あるこ！～九州自然歩道の旅～」連載
西日本新聞より受託。2013年8月より連載中の新聞紙面における九州自然歩道体験記。毎月第1水曜日朝刊に連載中。福岡県から始まり、大分・佐賀・長崎を歩き、3月時点で鹿児島県・さつま町に到達。福島が担当。
成果：34万部発行の新聞朝刊に連載（26年3月時点で連載145回）
継続的な九州自然歩道PRの機会



- 02** パタゴニア福岡ストア・トレイルパートナーズ説明会
2025年9月6日(土)開催
自主事業／協力：パタゴニア福岡ストア
2025年4月に開始した「九州トレイルパートナーズ」制度の説明会を、福岡ストアご協力のもと、ストア内でスペースをお借りして開催した。
成果：計23名のご参加／パタゴニア福岡ストア連携強化



- 03** 歩き育てる九州自然歩道～鹿児島セッション～
2025年10月4日(土) 自主事業／共催：鹿児島県自然保護課
九州自然歩道50周年に向けて、45年目の記念シンポジウム。NewsPicksCMO・池田光史氏やハイカーズデポ代表・土屋智哉氏らを招き、トークイベントを開催。夜はネットワーキングナイト、翌日は、吹上浜のハイクイベントを開催した。
成果：82名の出席者／鹿児島県内の連携強化／鹿児島県内でハイクイベント実施34名の参加。



- 04** 台湾千里歩道協会視察アテンド
2026年3月3日-4日 自主事業
台湾のロングトレイルの運営団体「台湾千里歩道協会」が九州へ来訪。鹿児島県庁において意見交換及び高千穂峰の視察を実施。翌日はみやざきハイキングクラブによる宮崎県の視察を実施。
成果：協会3名の来訪／台湾およびアジアのトレイルとの連携強化



- 05** 平尾台フィールド清掃
主催：地球のかけら
平尾台の自然保全活動やガイドツアーに取り組んでいる「地球のかけら」さんが実施する野焼き後のフィールド清掃に同行させていただいた。トレイルパートナーズにも声がけし、3名で参加。
成果：平尾台の自然保全／地球のかけらさんとの連携強化



06

令和6年度九州自然歩道活性化等支援業務（繰越）

環境省九州地方環境事務所国立公園課より受託／事業費約200万円

自然歩道を所管する環境省および九州7県担当課との合同ミーティング支援及び、自然歩道を一覽できる全体マップの作製業務を受託。九州管内の自然保護官にも出席いただき、九州自然歩道の憲章および運営計画策定に向けて話し合った。

成果：環境省および九州7県の集まる場の開催／所管課との連携強化

第14回九州自然歩道ミーティング（2025年8月25日開催）



ゲストに(株)ブンボの江副直樹氏をお招きし、各地で携わるトレイル憲章について講話いただき、環境省およびフォーラムで作成した憲章たたき台をもとに、3-4名のグループで話し合うワークショップを催行。憲章への意見およびミーティング後にシート形式による意見照会を実施し憲章ブラッシュアップに向けて、意見を収集した。

成果：江副直樹氏による講話／憲章への意見

第15回九州自然歩道ミーティング（2026年2月10日開催）



ゲストにいであ(株)の神田修二氏をお招きし、環境省職員時代に携わった長距離自然歩道や九州での取り組み、OBになった今でも活動していることを紹介いただいた。意見を踏まえた憲章案を提示し、その後運営計画についての意見洗い出しを行った。

成果：神田修二氏による講話／憲章への意見／運営計画への意見

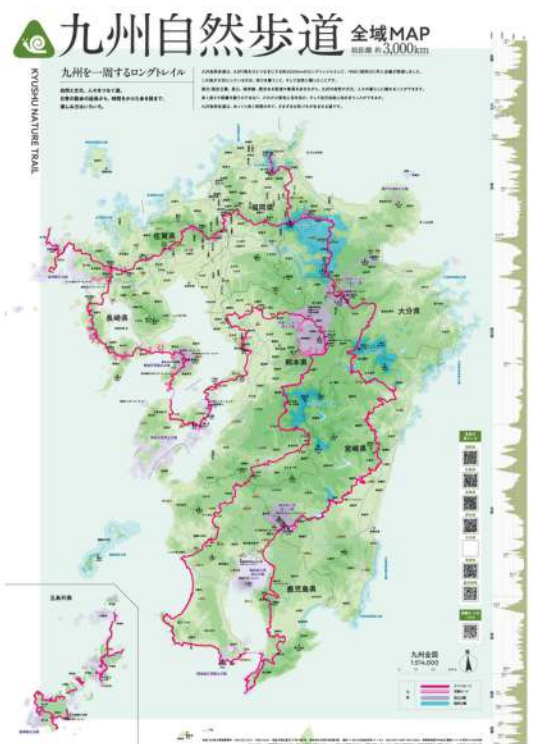
九州自然歩道全体マップの作製

今までになかった九州自然歩道全体が見られるマップの作製を行った。国立公園等のエリアを載せ、自然歩道のルート掲載。フォーラム及び環境省による詳細な現地情報などを取捨選択し、完成した。

成果：九州自然歩道全体マップの作製



▲A3全体マップ▶



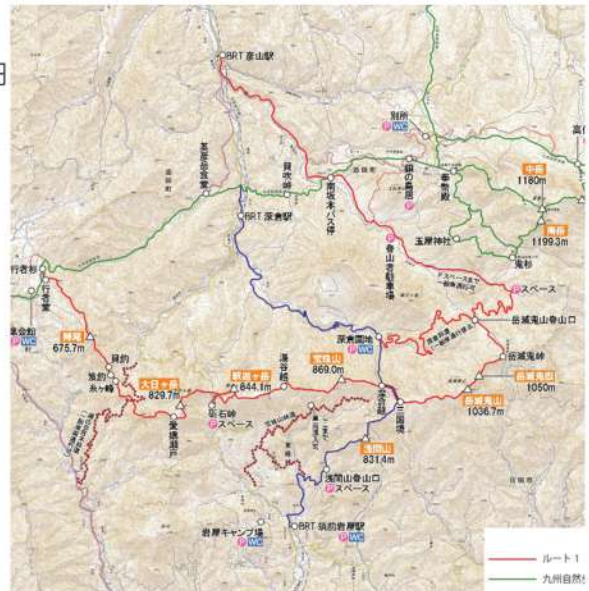
▲A1全体マップ

07 自然歩道新規ルート案検討業務

福岡県自然環境課より受託／事業費約330万円
福岡県下の東峰村・行者杉から大日ヶ岳～岳滅鬼山等を経て英彦山へ連なる修験の道及びBRT「ひこぼしライン」を活用した区間

(BRT深倉駅～深倉峠～BRT筑前岩屋駅)を候補とし、九州自然歩道の支線としての設定を見据えた調査を実施。歴史文化の価値と登山利用の実態を踏まえ、保全と利用の両立を軸に、線形・安全・文化資源・受入環境を可視化し、将来の維持管理体制・情報発信の骨子を整理した。あわせて、公共交通接続を組み込み、分散来訪と低環境負荷の来訪導線を検討した。

成果：東峰村・添田町関係者との連携強化
新規ルートの調査結果



08 九州自然歩道魅力発信動画制作

福岡県自然環境課より受託／事業費250万円

福岡県内の九州自然歩道の魅力発信のためのPR動画を制作。血倉山・福智山・平尾台を舞台に、1分程の動画を各所3本、また3分のダイジェスト版及び15秒の広告用動画を作成。日本語の他、英語・中国語・韓国語版も作成した。

成果：PR動画の完成／有料広告による認知度向上



youtubeチャンネル「福岡県庁動画資料館」特設再生リスト▶



09

九州自然歩道五島列島ルートを活用した自然とのふれあい促進業務委託

長崎県自然環境課より受託／事業費約200万円
 西海国立公園指定70周年に合わせ、五島列島における九州自然歩道ルートの実態把握を目的に、全線踏査による資源調査を実施した。海岸景観や集落、教会群などの自然・文化資源を写真・地図・記録として整理するとともに、案内板や施設の状況確認を行った。あわせて、調査成果を活用し、実際に歩く体験型イベント「五島列島トレイルハイク」を企画・実施した。新上五島町および五島市においてそれぞれ約20kmの行程を歩き、自然・歴史・暮らしを体感する機会を創出するとともに、地域住民や関係機関と連携した運営を行った。
 成果：歩道沿線の資源可視化および課題把握
 体験型イベント(参加者35名)による
 生物多様性理解と九州自然歩道の認知向上
 滞在型観光の促進および地域事業者との連携強化



10

九州自然歩道平戸ルートを活用した自然とのふれあい促進業務委託

長崎県自然環境課より受託／事業費約60万円
 西海国立公園指定70周年に合わせ、平戸エリアでも事業の実施。2024年度に雲仙市で実施したトレイルクリーンをベースに、平戸での実施を企画。事前調査や市役所との協議を経て、2026年1月18日に実施した。
 成果：12名の出席者

トレイルクリーン・ナガサキ

TRAIL CLEAN NAGASAKI

vol.1 HIRADO

日時 2026年1月18日(日) 8:00 - 13:00

場所 長崎県平戸市 九州自然歩道 川内時ルート (約29km)
集合場所：川内時集合場所

参加費 1,000円
(参加費は、川内時集合場所から平戸市役所まで送迎バスで送迎されます)

トレイルクリーンとは？
 九州自然歩道を歩く際に、落ちているゴミを拾い、適切な場所へ持ち帰る活動です。清掃だけでなく、道中や目的地で自然観察や、平戸の歴史や文化について学びたい方も歓迎です。九州自然歩道を歩く楽しみと自然観察や文化体験も合わせて楽しむことができます。

主催：長崎県自然環境課 協賛：長崎県庁 共催：長崎県庁自然環境課



11 九州自然歩道維持管理支援業務

鹿児島県自然保護課より受託／事業費約230万円

県内の自然歩道維持管理業務を、市町村への委託からフォーラム一括委託へと変換し受託。現地調査を経て、霧島山岳会や現地アウトドアショップ等と連携して、草刈りや倒木の処理を実施。今後も継続的な業務受託により、鹿児島県の連携強化と満足度向上を目指す。

成果：維持管理業務の受託及び地域との連携強化／県内コースの快適性向上



12 九州自然歩道効率的維持管理・利活用促進業務

鹿児島県自然保護課より受託／事業費約150万円

上記調査を踏まえ、鹿児島県の自然歩道が見られるGPXデータ等の作成業務。今後県HP等で公開予定。また合わせて歩道の状況に応じた整備状態マップを作成し、今後の維持管理環境を整えた。

成果：GPXデータの作成、整備状態マップの作成



13 長期滞在を活かした「稼げる町いぶすき」への観光推進事業

指宿市>(株)阪急交通社より受託

指宿市における観光コンテンツ開発で、開聞岳及び知林ヶ島のアウトドアプログラム造成サポートを実施。知林ヶ島では、カヤック&ハイキングの視察を行い、環境省や鹿児島県等を交えた活用案を模索した。開聞岳では開聞岳ガイドクラブが実施するガイドの視察、アウトドア弁当の企画開発に携わった。九州自然歩道が通る指宿市は拠点として大変魅力的な場所であり、今後も継続したコンテンツ開発が望まれる。

成果：関係者の合同会議／指宿市や観光協会等との連携／阪急交通社との連携



14 多良岳を活用した歩きイベントに向けた研究

歴史の道観光・文化交流推進協議会より受託／事業費24万円

佐賀県太良町及び長崎県諫早市をつなぐ多良岳及び多良街道の活用に向けたワークショップを実施。第1回、第2回では、地域の理想的な将来像や弊社取り組み等を紹介。第3回では金泉寺にて、福島が実施している「キッチンハイク九州」のプログラムを実施。

成果：多良岳関係者との連携強化



太良町安全管理講習▲

太良町観光協会主催の安全管理講習の講師として、野元・福島が登壇。主に多良岳でガイドをされている方々へ向けて、ガイドの資格や保険関係、判例などを紹介。また、アウトドアを活用したプログラム造成及びビジネスモデルの紹介を行った。

15 The North Face撮影アテンド

(株)Goldwin>ampersands inc.より受託

アウトドアブランド「THE NORTH FACE」の春夏ウェア・ギア特設サイトに掲載する写真撮影のため、九州自然歩道の島原半島を提案・撮影アテンド。島原半島内の九州自然歩道を中心に、自然や町、地域の方々のコーディネートを行った。

成果：島原半島の方々との連携強化／THE NORTH FACEサイトに九州自然歩道掲載



16 MATSUMOTO TRAIL DAY 2025

岳都・松本山岳フォーラム実行委員会より受託

長野県松本市で行われたハイカーの集い「MATSUMOTO TRAIL DAY 2025」にて、ブース出展及び登壇。九州のマップ販売やパンフレットの配架を実施。多くの方が来訪され、また長野にお住いの九州出身の方々にも多くお越しいただいた。登壇では、長野周辺のトレイル関係者と鼎談。九州の歴史や取り組みを紹介した。

成果：ブース及びトーク会場に多数の来訪者



17 「九州自然歩道みやざき道つなぎハイキング」ツアーガイド

宮崎県>(一社)トレイルブレイズハイキング研究所宮崎支部より受託

宮崎県の事業で実施するハイキングイベントのガイドを担当。綾町編及び綾町～国富町編をご案内。多数の参加者が訪れ、宮崎県ルートを楽しんだ。本ハイキングイベントは、シリーズ物で、全参加で県内コースを踏破できる。

成果：33名・21名の参加者／(一社)トレケンとの連携強化



18 旅行サービス手配（ランドオペレーター）業務

旅行サービス手配業とは、旅行会社の依頼を受けて、旅先における宿泊施設や食事、交通等の各種手配・予約を行う業務である。これらの業務を担うものを「ランドオペレーター」とも呼び、旅行業者もしくは旅行サービス手配業の資格をもたなければできない。旅行会社がプランを造成する際に、現地事情に精通したランドオペレーターと連携することで、より質の高い旅行体験の提供が可能となる。

一般的にはランドオペレーター資格により実施するのは交通や宿泊の手配だが、弊社ではガイド等の手配も本業務に入れている。弊社は自然歩道の取り組みでつながったアウトドアガイドや地域とのつながりを活かし、業務を実施している。



観光庁HPより

高千穂で旅行業を営む(株)訪うからの依頼で、海外ゲスト様の交通や宿泊、現地アウトドアガイドやキッチンハイクプログラムの手配を実施。



(株)山と風が実施する九州でのツアーにおいて、キッチンハイクプログラムの依頼やサポートガイドとしてのツアー同行の手配を行った。



環境省阿蘇自然保護官管管理事務所及び(有)日航観光社味と味学院が行う南阿蘇村を中心としたコンテンツ開発において、九州自然歩道が通る外輪山等を活用したキッチンハイクプログラムを手配。外輪山での実施の他、新しく登山道を整備した夜峰山でも実施し、今後インバウンドを対象にプログラムを整えて販売体制を構築していく。



19 [メディア] RUN+TRAIL別冊 「TRAILHEAD 軽量登山最前線 ロングトレイル」



日本各地の「ロングトレイル」を特集した雑誌。Vol.6では事務局長インタビューや各地の歩道紹介、Vol.7は、鹿児島でのイベント特集記事を掲載。また野元代表理事及び川瀬鹿児島県自然保護課長による対談も掲載。
成果：大手雑誌への掲載



雑誌「国立公園」No.833



(一財)自然公園財団が発行している専門誌への寄稿。2024年度に実施した「国立公園基金」による九州自然歩道の島原半島HikingMapBookの作成について、執筆した。本基金のおかげでMapBook作成の一助になった。
成果：専門誌への掲載



20 [協力] Trekkitchen2025 山舎及びキッチンハイク九州共催のトレッキングイベントへの協力。 成果：イベント開催地として九州自然歩道の利用



21 [後援] 九州山岳保全フォーラムin阿蘇 九州各地の登山道整備団体や管理者が集まり、山の保全や今後の登山道のあり方について議論・共有するフォーラムが2025年11月29日-30日に、阿蘇青少年自然の家で開催された。翌日は、夜峰山を登り、生態系回復を目指した登山道整備の在り方を、視察した。現場の課題や持続可能な管理体制を考える場となった。



高千穂トゥギャザーウォーク大会

宮崎県高千穂町の自然や文化資源を巡るウォーキングイベント。神都高千穂大橋や高千穂峡などを歩きながら地域の魅力を体感し、交流や健康づくりを目的として開催されている。九州自然歩道の一部を通るため、今回より後援を行い、告知協力を行うとともに九州自然歩道認知度向上に協力いただいた。



YAMAP英彦山巡礼路パネル設置

YAMAP及び福岡県が推奨する英彦山～大宰府への修験道をリデザインした「英彦山巡礼路」へのパネル設置をサポート。ロゴのパネルを九州自然歩道の看板への設置するイベントを実施する際に九州トレイルパートナーズへお声がけし、2名のサポーターが参加。取り付け作業を行い、今後の発信の一助になった。



生態系回復を目指した登山道整備 道なおしワークショップ

九州自然歩道では、登山道の持続的な利用と自然環境の保全を両立させるため、自然本位の登山道整備に取り組んでいる。その一環として、阿蘇を拠点に活動する渡邊裕介氏（阿蘇山道整備）による、生態系の復元や土壌環境の安定を目的とした登山道整備手法を導入している。



初めは、座学。
登山道整備の目的や考え方をお伝えします。



整備を始める前に、自然環境の把握。
どのような整備が良いか検討します。

登山道を含む自然道は、地形や気候変動、そして人の往来によって侵食が進み、荒廃していく傾向にある。これに対して画一的な工法で対処すると、かえって自然環境に悪影響を及ぼすこともある。そこで本ワークショップでは、水の流れ、地形の特性、人の歩き方といった複数の視点をもとに最適な工法を判断し、現地にある倒木や石、砂利などの自然素材を用いて、植生回復を重視した整備を行っている。

本整備の第一の目的は、「歩きやすさ」ではなく「植生の回復」であり、自然景観に配慮しつつ、環境への負荷を最小限に抑えることを重視している。歩くことで土壌が再び傷まないよう、自然の状態に近い安定した道の再生を目指している。



様々な道具を用いて、自然に合う登山道へ
整備を行っています。



整備完了は始まり。ここで雨や踏圧等、時間が
経ち自然に溶け込んでいる状態を目指します。

今後も九州自然歩道では、自然との共生を前提とした登山道整備を各地で展開していく予定である。登山道整備に関心のある地域や団体と連携しながら、持続可能な道づくりに取り組んでいきたい。

2026年度の目標

2025年度は多くの皆さまのご協力に支えられ、大きな一歩を踏み出すことができた。今年度は、各地で始まった取り組みを着実に広げ、地域に根ざしながら、2030年を見据えたビジョンの具体化と共有を推進していきます。

01

九州トレイルパートナーズとの協働

地域の企業・団体・個人が九州自然歩道を支える仕組みとして、2025年度スタート。登録者の増加に伴い、フォーラム及び行政では手が回っていなかった自然歩道の周知や整備等の取り組みをトレイルパートナーズの方々と協働して、実施。自然歩道のすそ野を広げること目標に取り組む。



02

グッズ展開による自主事業拡張

2025年5月に発売開始した「島原半島HikingMapBook」や、MIYAGEN製3Dホイッスル等のグッズ展開を開始した。今年度は、グッズ展開を広げ、登山用品店や観光案内所などへの販路拡大、PRイベントの実施、オンラインでの発信強化を通じて、さらなる認知と購入促進を図っていく。



03

情報基盤の整備と一元化

持続的な運営と利活用を支えるため、分散しているGPXデータや通行状況、危険箇所、拠点施設を整理・統合し、最新情報として管理・更新する仕組みを構築する。あわせて、フォーラム主体でウェブマップを整備し、ルートや通行可否、周辺情報を一体的に可視化することで、利用者の安全性・利便性の向上と、関係者間の円滑な情報共有を実現する。

2030年度「50周年」に向けて

1. 2030年と2040年に向けた中長期ビジョンとロードマップの策定・運用

中長期的なビジョンを策定することで、九州自然歩道の将来像を地域や関係者と共有し、一貫性のある歩道整備・利活用の方向性を描いていく。歩道の整備・活用・運営に関する将来像を明確にし、段階的なロードマップとして落とし込むことで、広域的かつ持続的な歩道運営の実現を目指す。

2. 歩道のインフラと情報基盤の整備

自然歩道を歩きたいという方が、計画を立てる際や現地を歩いているときに迷ったり、不安にならないよう、ルート上のサイン・アクセス情報の改善により、歩ける環境を整備することで、歩く道としての魅力と信頼性を高め、九州の自然資源を発信していく。

3. 環境省及び7県の担当者が集まる連絡会議の持続的な開催

環境省および7県の担当者が集まり、意見交換や連携を行うためのミーティングの開催は実現できている。50周年までに持続可能な会議とし、これにより、より緊密な協力関係を構築し、持続可能な自然歩道の推進において政府機関との連携を深める。

謝辞

2025年度も、自治体の皆さま、各地域の事業者の皆さま、ガイドの皆さま、そして多くの方々のご支援のおかげで、(一社)九州自然歩道フォーラムはさらなる取り組みを展開し、九州自然歩道の再興に一歩近づくことができました。

この機会に、心から感謝申し上げます。皆さまのご協力とご支援によって、私たちの活動はより効果的で意義あるものとなりました。改めて、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

今後も九州自然歩道フォーラムは、より一層の発展を目指し、九州の豊かな自然環境を守り、地域の魅力を高めるための取り組みを続けてまいります。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(一社)九州自然歩道フォーラム
代表理事 野元 尚巳
副代表理事 山口 久臣
副代表理事 成崎 聡
事務局長 福島 優
長崎支部長 田川 光介
事務局 福島 緑
アドバイザー 相澤久美氏
江副直樹氏

九州自然歩道フォーラム発足時の呼びかけ人
加藤則芳氏、新村史明氏、志賀壮史氏、税田裕子氏、
岡野隆宏氏、成崎聡、山口久臣、野元尚巳

ご協力いただいている皆さま

九州自然歩道みやざきハイキングクラブ / (一社)トレイルブレイズハイキング研究所 / 山學舎 /
阿蘇山道整備 / あそBe隊

2025年度の九州自然歩道維持管理・活用にご尽力いただいた担当部署の皆さま

環境省	九州地方環境事務所	
	国立公園課	渡邊春隆氏
	自然環境整備課	千田智基氏
	阿蘇くじゅう国立公園管理事務所	笠原綾氏 岩崎辰也氏 松原かおる氏 三村真理氏 鈴木裕二氏 藤田幸代氏 荒川妙恵氏
	くじゅう管理官事務所	寺田謙太郎氏
	五島自然保護官事務所	鈴木裕杜氏 片山美希氏
	雲仙自然保護官事務所	日比野晃裕氏 井上あや氏
	えびの管理官事務所	松野壮太氏 有馬海弥氏 椎葉美香氏
	霧島錦江湾国立公園管理事務所	西大輔氏 佐京楓氏
福岡県	環境部 自然環境課	阿蘇品博文氏 古賀淳之介氏 吉村和徳氏 齊藤有香氏
佐賀県	県民環境部 有明海再生・環境課	安田和樹氏 内山和彦氏 井上恵伸氏 西村泰史氏 大串覚氏
長崎県	県民生活環境部 自然環境課	深谷雪雄氏 石川勉氏 松尾龍一氏
熊本県	環境生活部 自然保護課	木村靖氏
大分県	生活環境部 自然保護推進室	井上耕介氏 都留徹也氏 中津留珠子氏
宮崎県	環境森林部 自然環境課	伊福隆徳氏 青木杏里氏
鹿児島県	環境林務部 自然保護課	川瀬翼氏 今村一美氏 中尾大輔氏 有蘭亜耶氏 七夕大輝氏

(敬称略・順不同)

九州自然歩道憲章

— 「九州自然歩道」の再生と保全と活用への指針—

●九州自然歩道のあり方

- ・九州自然歩道の基本は、7県をつなぐ一本のシンプルな線であり、シンボルである。
- ・多種多彩多様な利用者のニーズにこたえるトレイルとする。
- ・人と人とを結びあう「絆」のトレイルとする。
- ・それぞれの地域、自治体は、個性は出しても必ず全体像を意識して行動する。

●九州自然歩道の目的

- ・豊かな自然や歴史・文化を地域の人たちが再認識し、九州と云うふるさとへの誇りと愛情を持ってもらうことを目指して行動する。
- ・生物多様性を十分に理解・認識して保全と活用の両面から整備するシンボリック的存在とする。

●九州自然歩道の整備と保全と維持・管理

- ・九州自然歩道を歩く人たちの物語性や夢とロマンと冒険を意識した整備を行なう。
- ・持続可能な活用のための維持・管理と保全活動を国、自治体、民間団体の連携・協働で行う。
- ・環境への負荷を極力軽減するために定期的、持続的な環境調査を連携・協働で行う。

●九州自然歩道の再生と保全と活用への連携と協働

- ・国、自治体、民間団体との緊密なる連携と協働のもとにトレイルづくりを行なう。
- ・国、自治体、民間団体が主導しつつもかつバックアップにも徹する。